



四人姉弟から手作りマスクの寄贈(伊豆中央ケアセンター)

2020 東京オリンピックの年

みはるの丘浮島 山下 勇

私も春風会に入社し、この10月で40年が経ちます。福祉で働くきっかけは先代理事長が、静岡県初のデイサービス事業を開始するので、バスの運転手を探していることを父親が聞いて応募したのが始めです。

措置の時代から2000年に介護保険制度の時代が始まり、早いもので20年が経過しました。福祉サービスを利用される方に取っては介護保険制度になり、利用しやすく、より良い介護サービスが受けられるようになりました。

2020年の年が明け久しぶりに東京で、オリンピックが開催されることを、お年寄りも、私も楽しみにしていました。中国の湖北省武漢市から発生したとされている新型コロナウイルスの感染が世界中に拡大して、収束の見通しがつかないためオリンピック開催が来年以降に延期となりました。今やこのウイルス感染との闘いが世界中の人々、人類の課題となっています。最初の頃は中国国内で問題解決できるだろうと思っていました。すさまじい勢いで世界中に感染が拡大しました。

私が勤め始めたころはワッセルマン感染症の話題が中心でしたが、今

ではワッセルマンの特性が理解され、話題にもなりません。MRSAも一時は大騒ぎしましたが、消毒などしっかりする習慣ができ、昔の話になりました。

みはるの丘浮島でもインフルエンザ、疥癬、ノロウイルスも経験しましたが、それぞれの感染防止マニュアルも作成されたことで、その後は、感染症が広まることはありませんでした。

今回の、新型コロナウイルスは「うつらない」「持ち込まない」「予防の徹底」により、感染防止に努めている所です。今までに実施したことのない職員の勤務体制の構築や施設行事の中止、国の通達を根拠に、入居者やご家族の方に面会制限をお願いし、ウイルスの持ち込みを防止いたします。面会制限も長期になり、希望される方には、ウェブ面会も始めさせて頂いております。

既に、他の高齢者施設でコロナ感染が発生しており、情報を収集して感染を未然に防いでいきたいと思えます。職員一同頑張っている所ですが、今しばらく、入居者、ご家族にご不便をかけるかと思いますが、ご協力をお願い致します。

新型コロナウイルス対策と 今後の課題



世界中で猛威を振るう新型コロナウイルスは、私たち介護現場における業務の在り方についても大きな影響を与えて来ました。

私たち職員が新型コロナウイルスに感染し、施設や事業所に感染症を持ち込むことは、私たちが支援する方々の生命に関わる大きな問題です。

春風会では、様々な取り組みを通し、一人の感染者を出すことなく現在に至っております。今後も一人ひとりの職員が日々の健康管理に努めながら、最善の感染症対策に取り組んでいきたいと思えます。

テレビ電話による新たな 面会方法の取り組み

春風会の特別養護老人ホームでは、家族面会をはじめ、納品業者やボランティアなど外部者の施設入館を制限し、新型コロナウイルス

感染症の施設への拡大防止に取り組んで参りました。

みはるの丘浮島では、家族が施設に入ることなく、何らかの形で入居者と家族が安心出来る取り組みは出来ないかと検討した結果、各フロアに設置してあるタブレット端末を使用し、テレビ電話にて定期的に家族と連絡をする取り組みを始めました。



▶居室と自宅を繋ぐ
(みはるの丘浮島にて)

最初は、家族も入居者も双方の画面に映る互いの顔を見て、嬉しさ以上に驚かされている様子が見受けられました。

利用した入居者からは「便利な世の中になつたね」と時代の変化に対する感想が寄せられました。家族からは、「顔が見れないことがとても不安に感じていましたが、このような対応をして下さりとてもありがたいと思います」と感謝の声をいただきました。

まだまだ試行段階で数名の方の対応ではありますが、今後は遠方の家族を中心に利用頻度を増やし、いつでも安心していただけるサービス提供に努めていきたいと思えます。

密空間を避けて リモート会議への移行

毎月定期的に行われていた法人の施設長会議や各専門部会、職種別委員会、更には施設内の主任者会議については、担当者が一堂に会して会議室等で行われて来ました。今般の新型コロナウイルスによる感染対策の一環として、従来の集合形式の会議・研修を見直し、それぞれの勤務先にて密空間を避けて参加する、リモート形式

の会議に試行的に取り組みました。施設内のZoomの受信環境により音声途絶えるなどのトラブルも当初はありましたが、回を重ねる中でそれらの問題も徐々に解消し、参加者からは、「会場に集まる移動時間が短縮され、有効的な時間の活用が出来るようになった」との声が聞かれました。

職員一人ひとりの生産性の向上と効率的な業務推進について、日々の業務を見直す良い機会となりました。



▶各施設の施設長とのWeb会議
(あしたかホーム会議室にて)

令和2年度
社会福祉法人春風会 新規採用職員辞令交付式

新たな仲間たちを迎えて



春風会では、令和二年四月一日、今年四月採用の新規職員の辞令交付式を行いました。今年度の同日付け新規採用職員は学卒者八名、中途採用者二名の計十名です。式では全員に辞令交付が行われ、新規採用職員を代表し、あしたかホーム介護士として勤務する武藤秀美さんが代表挨拶を述べ、沼津市立高尾園の深沢施設長による園訓唱和、石川理事長からの訓示が行われました。

社会福祉法人春風会 園訓

- 一、明朗で礼節あるホームに育てましょう
- 一、和を愛す施設の趣旨を理解し知識の向上に努めましょう
- 一、毎日の仕事に責任と誇りを持って楽しく勤めましょう
- 一、利用者の身になって我が身に対処しましょう
- 一、地域福祉のために努めホームの発展に力を尽くしましょう

新規採用された皆さんへ

社会福祉法人春風会 理事長 石川 三義

春風会の園訓は極めてシンプルで分かりやすい内容です。しかしながら、実践することは難しい言葉がたくさん入っています。私たちはこの園訓を開設以来、毎朝各職場で唱和し、その園訓の精神を引き継いで来ました。皆さん一人ひとりがこの園訓に書かれている5項目を噛みしめ、法人の職員としてしっかりと仕事をしてください。福祉の仕事に就くこと、法人の職員となることの責任と誇り、勇気を持ってこれからの日々を歩んでください。福祉の仕事は、人の命、生活を預かり、支え、守っていくものです。特に、高齢者介護は、その人の最期を看取る崇高な仕事です。その福祉の仕事に就く事に誇りを持ち、一步一步着実に歩み、地域に貢献できる様に頑張ってください。

新規採用職員代表あいさつ

あしたかホーム 介護士 武藤 秀美

社会福祉法人春風会の職員としてスタートできる喜びを、この上なく光栄に思っています。なにぶんにも学校を出たての右も左も分からない未熟者です。1日も早く一人前の職員として働けるよう努力してまいります。その中で、春風会職員として自分はどうあるべきか、ということ常を意識しながら春風会の名に恥じないように行動をしていきます。

私の目標は、利用者一人ひとりに合わせた方法で丁寧な自立支援サービスの提供を行いたいです。そして、多くの経験を積み、多種多様な対応が出来る介護士を目指します。わからないことや困った時、そして、悩みがある時は、上司・先輩職員・トレーナー職員に相談し、自分一人で考え込まないように努めていきます。





Muto Hidemi

武藤 秀美

あしたかホーム
短期



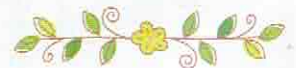
- ①私のはとこは、難病を患っている影響で人の役に立てる仕事が見たいと思ったのがきっかけで福祉を選びました。また、高校3年生の時に虹の家のボランティアに参加したことがきっかけで高齢者や障がい者の分野で学び多様な対応ができる介護士になりたいと思ったため春風会を選びました。
- ②10日間の研修で、グループディスカッションなどを行いコミュニケーションを図ることで同期との横のつながりができるきっかけになりました。
職員としての心得や介護士としての知識・技術面を改めて学ぶことができました。実技演習の講義も多々あり1つ1つ体験したことで、現在の業務に繋がっています。
- ③トレーナー制度があるので疑問点や悩みを話し助する上でのアドバイスや助言をして下さるため、抱え込まずに働くことができています。
利用者様1人ひとり違いがあるためその方に合った方法で介護する難しさを感じます。一日も早く対応できるよう努力していきます。



Oishi Haruka

大石 はるか

みはるの丘浮島
特養



- ①高校の時、あしたかホームへ研修に行った際、職員さん達がお年寄りの方に対して、「どうすれば喜んでくれるか等」話している声が聞こえ、私もそのような心を持ちたいと尊敬と憧れの気持ちを持ち、この仕事を選びました。
- ②事前研修では利用者の心についても学ぶことができ、私は今までそこまで利用者についてしっかりと考えた事がなく、より利用者目線になってもらうために、自分=利用者といった話で進めたり、ペア同士でジェスチャーをしてみたりと面白さもあり、楽しく学ぶことができました。
- ③高卒で初めての仕事なので色々不安な面もありましたが、先輩職員さん達は優しく、私が失敗をしても、次に繋がるアドバイスを下さり、休憩時間等にも声をかけて下さったりしました。
利用者の方は、様々な人があり、それぞれ対応の仕方が違うのを改めて実感することとなりました。日々、経験を積んでいき先輩達のように働けるよう努力していきたいです。



Ito Mizuki

伊藤 水樹

プレーグあしたか
特養



- ①親が介護士をしている影響であしたかホームへボランティアに行った際、いろんなところから「ありがとう」が聞こえてくる現場に憧れ、福祉を選ぼうと決意しました。
- ②介護の基本や食について、病気についてなど多分野にかけた講座をして下さり、とても助かりました。
- ③まだまだ未熟なところが沢山あり、先輩方にとっても迷惑をかけてしまう日々ですが、そんな私を職員の一員と言って下さり、困ったときは嫌な顔せず助けて下さる先輩方にとっても尊敬しています…。



Ogawa Yuuka

小川 優花

あしたかホーム
特養



- ①曾祖母の介護で疲れた家族を救ってくれたのが介護士さんで、そこから強い感銘を受け志したのがきっかけです。そして、実習でお世話になったのが春風会で、皆さんがとても楽しそうに仕事をしていることからこの法人を選ばせていただきました。
- ②一日から業務に入ることを考えると、事前研修はとても心強いものでした。職場の雰囲気やケアの仕方、法人についてなど多くのことを学ぶことができました。また、同期の皆さんとも話すことができたのでさらに頑張ろうとも思いました。
- ③春風会にはOJTという制度があるため、業務で困ったことや分からない点を先輩職員の皆様に聞いて、勉強させていただけるので、その場で解決できることがとても助かっています。



① 福祉、春風会を選んだ理由

② 採用前の事前集合研修について

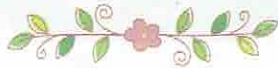
③ 入職してからの感想



Kaneko misaki

金子 美咲

プレーgeおおひと
栄 養



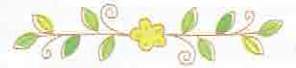
- ① 沢山の人を笑顔に出来る食事を作りたいと思っていました。職場見学に伺った際に、利用者に合わせた食事を提供していることや、職員一人一人が自分の仕事に責任を持って取り組んでいる姿を見て、とても感銘を受けたからです。
- ② 福祉について殆ど分からない所からのスタートで、不安でいっぱいでした。現場研修では、介護食未経験の私に1から教えてくれました。私も早く力になれるように頑張りたいと思いました。
- ③ 分からないことが多く、戸惑うこともありますが、出来なかったことが出来るようになる喜びは大きいです。日々成長できるよう、1日1日を大切に、勉強しながらこれからも気を引き締め、頑張っていきたいです。



Umehara Eri

梅原 恵理

沼津市立高尾園
栄 養



- ① 私の祖母は、詩吟の先生をしていた為、お年寄りの方と接する機会が多く、お年寄りの方と接する仕事をしたいと思うようになりました。また、自分が作った料理で祖母が笑顔になる姿を見て栄養士として働こうと思いました。
- ② 法人内の各事業所での取組みや社会人としての心構えを学びました。また、職員の方や同期との交流もでき、とても有意義な研修になりました。春風会職員としての自覚と誇りを持って働くきっかけになったと思っています。
- ③ 覚える事や失敗が多いですが、先輩職員の方には、懇切丁寧に仕事を教えて頂いています。利用者の方には、励ましの言葉をかけて頂いています。先輩職員の方や利用者の方の温かい言葉を励みに頑張っています。



Kawamura Ibuki

川村 伊吹

伊豆中央ケアセンター
特 養



- ① 私が福祉を選んだ理由は、中学生の時に祖父が体調を崩した際、春風会のふれあいデイサービスでお世話になりとても良くしていただきました。それがきっかけで福祉に興味を持ちました。
- ② 介護の基礎や接遇について学ぶことが出来ました。介護の現場でも学んだことを生かせるように努力していきたいです。
- ③ 最初は仕事をする事へ不安を感じていましたが先輩たちや利用者の方々もとてもやさしく接していただき、少しずつ不安が解けていきました。



Kato Yuuya

加藤 祐也

ぬくもりの里
特 養



- ① 中学生の時、祖父母の身の回りのお世話をしており、その時からお年寄りのお世話に興味を持ち、学校の先生方に相談したら春風会を紹介してくれて、見学に伺わせて頂き、魅力を感じた為、選びました。
- ② 事前研修では色々学ばせていただきましたが、介護の現場にも接遇マナーが重要視されていることには驚きました。私は高校時代、サービス（接遇）について勉強しており、その知識をこれから活かしていきたいと感じました。
- ③ 入職してから1ヶ月が経ちました。最初は何もわからず大変でしたがグループの先輩方が優しく、時には厳しく指導していただき少しずつ分かり始めてきて、今は楽しく仕事が出来ています。時には失敗したこともありましたが、優しい先輩方が相談に乗ってくれていただきその時は大変うれしくなりました。これからも頑張りたいと思います。

やっとみんなが
そろいました



四月、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、伊豆市から「登園自粛」の要請が市内全園の保護者に対して出されました。

そのため、あまぎ認定こども園でも、園児の三分の二近くにわたる六十名以上が欠席する毎日が続きました。

ようやく五月二十五日、市立小中学校の再開に合わせ、市の要請が解除され、子ども達が園に戻ってきてくれました。

とはいうものの、学校も園もすべて去年までと同じというわけにはいかず、行事の多くも見直し

を余儀なくされています。

子ども達が楽しみにしていた夏のプールもそのひとつです。市内の園や学校がすべてプールを中止する中で、あまぎ認定こども園だけが例外というわけにもいかず、中止の決断をせざるを得ませんでした。

しかし、連日の暑さの中で、少しでも子ども達が水とふれあう機会を設けたいと考え、園庭にテントを張り、その下で水浴びや水鉄砲、的当てなどを楽しんでいきます。

子ども達の歓声を聞いたり、嬉しそうに笑顔を見たりすることが、職員にとっても何にも代えがたい喜びです。



工夫と対策で
日常を取り戻す



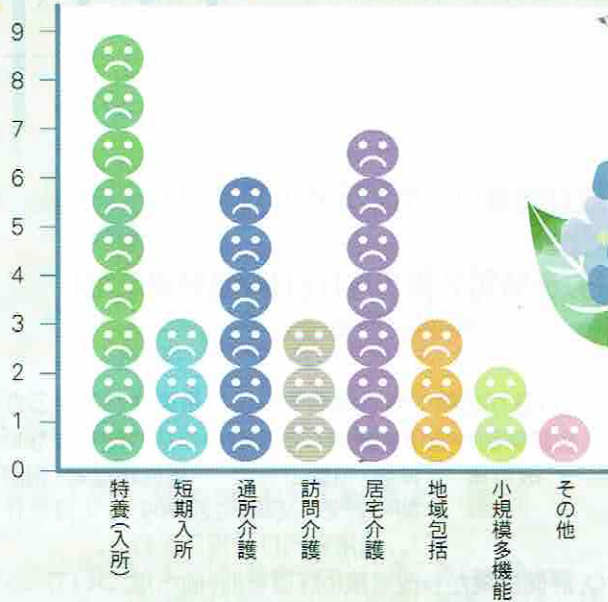
く食べていたおやつ・司会者が進行していた誕生会やお楽しみ会の行事なども感染予防のため工夫をし3密を避けるようにしています。衛生面では今ままで以上に配慮しなければなりません。子どもたちへの影響、ご家族の方々の大変さなどを思うと無事に過ごせる日常が本当にありがたいと感じます。今後も習慣づいた手洗い・うがい・消毒・検温を徹底して行ない、新型コロナウイルスが一刻も早く終息して本来の生活ができることを願っています。

そして、子どもたちの「ただいま」の元気な声、支援員の「おかけりなさい」のぬくもりの声をかけ、そして保護者の方々に「ありがとうございます」と言ってもらえる学童保育にしていきたいと思います。

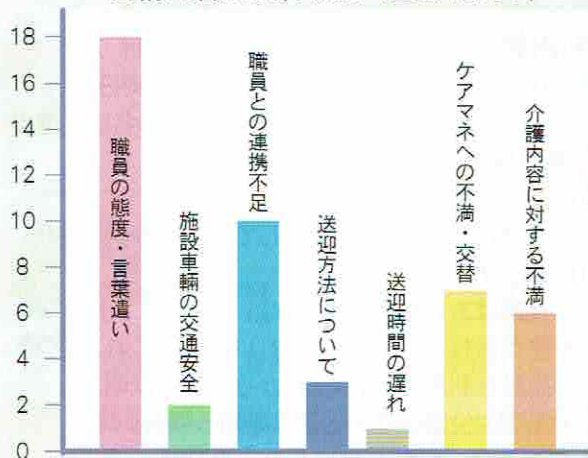
天城放課後児童クラブは現在体育館の多目的室を借りて、小学校と児童保護者の協力のもと、学童保育を行っています。児童は1年生(22名)、2年生(7名)、3年生(10名)計39名が在籍しています。1年生が多く賑やかな学童です。希望と期待に胸を膨らませスタートした新学期でしたが、新型コロナウイルスの影響のため学校が休業となってしまう、利用時間帯と受け入れ態勢が変更となりました。今まで近くに座って取り組んでいた宿題・皆で顔を見合わせて楽し



サービス別苦情等受付状況 (法人施設全体集計)
・苦情受付件数 34件



苦情内容別受付状況 (重複回答あり)



あしたかホーム 苦情解決第三者委員の声

・苦情を受け取る側は、ご家族やご本人からの苦情や要望を、苦情として捉えるのではなく、「大事な情報提供をしていただいた」と考え、その情報を基に介護する側・される側のお互いが分かち合い、信頼関係を構築する礎として欲しいと思います。

・相互の行き違いは、コミュニケーション不足に起因すると思います。担当者だけがフェイスシート等の情報を取得しているのではなく、その方に関わる全職員がその方の情報を共有し、またご家族とも信頼関係を築き、漏れの無い、事故の無い、より良いサービス提供に努めてください。

令和元年度 苦情・要望等受付状況報告

コミュニケーションこそが 一番大事!!

令和元年度の法人の各施設に寄せられた要望・意見や苦情等は、法人全体で34件ありました。一昨年と比較し8件の減少でした。

昨今、利用者の転倒・骨折等に対する苦情等は減少し、職員の言動や態度、提供するケアの内容やケアマネジャーのサービス調整についての苦情や要望等の内容が目立ち、この傾向は毎年増加の傾向にあります。また、苦情や要望等のご意見も、在宅サービスでは利用者本人からの申し出が多く、特養ホームでは入居された利用者へ頻繁に面会に来ていただいているご家族からの申し出が多い状況でした。現在、法人の運営する特養ホームでは、介護職員の負担軽減と連携を深めるため、インカム無線機を携帯し勤務についております。

それにより、職員間の情報共有が密となり、職員間の協力体制も構築され、事故防止に繋がっているとされます。また、介護保険法の改正により、特養ホームの入居基準が介護度3以上の高齢者と規定されたため、特養ホームの入居者の平均介護度も4を超え、ベッド上や車いす等で生活を過ごされる方が増え、入居者が重度化していることも転倒事故等の減少要因と思われます。高齢者の介護サービス事業所は、社会福祉法人だけではなく、民間の事業所も増加し、それぞれの事業所が特色を打ち出し、介護サービスを利用される側の選択肢は増えました。

しかし、実際に提供される介護サービスは利用者のニーズに合った適切なものであるのか、サービス過剰や過不足はないかなど、常に検証を行い、見直しを図ることが必要であると思います。介護現場の職員一人ひとりが利用者の立場に立って考えていくが大切です。介護サービスは介護職員、看護師、栄養士、調理員など、多職種が連携し同じ目線でサービス提供を行うチームケアが求められています。春風会では、部署内研修などを通じて職員一人ひとりのスキルアップや接遇マナーの向上に、今後も努めてまいります。

福祉サービス第三者評価結果報告

令和元年度に沼津市立高尾園では、福祉サービス第三者評価を「一般社団法人静岡県社会福祉士会」にて受審を行いました。令和2年3月に、評価結果報告書が届きましたので、その概要をご報告いたします。

訪問調査日 令和元年11月25日(利用者聞き取り調査日 令和元年8月20日)
第三者評価機関 一般社団法人 静岡県社会福祉士会
受審状況 初回 令和元年5月20日(契約日)～令和2年3月17日(評価結果確定)

① 沼津市立高尾園 評価結果の集計

《判断基準》

- a 評価…よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態
- b 評価…aに至らない状況、多くの施設・事業所の状況
- c 評価…b以上の取組みとなることを期待する状態

項目	内容	評価		
		a	b	c
共通評価Ⅰ	福祉サービスの基本方針と組織	3	6	0
共通評価Ⅱ	組織の運営管理	7	11	0
共通評価Ⅲ	適切な福祉サービスの実施	9	9	0
内容評価A	権利擁護、生活支援、自立支援等	14	4	0
	計	33	30	0

② 評価機関の総評と改善方法

◇ 特に評価の高い点

- ・ 内部監査制度と外部公認会計士の監査支援がある各種規定・要綱を整えルール化。
- ・ 利用定員の維持、事業経営・施設経営状況の把握。
- ・ 地域貢献共生社会の事業化。地域清掃、富士山植樹、草刈り、積木プロジェクト、ノルディックウォーク、子ども食堂への食材提供、居場所プロジェクトなど。
- ・ 職員育成、能力開発。目標管理シートの作成。
- ・ 介護マニュアルの文書化。接遇マナー、新人トレーナー制等。
- ・ 生活支援マニュアルと個別支援計画の支援。

◇ 改善を求められる点と改善策

- ・ 法人単位の事業報告、財政状況の公表について、事務所内に準備。訪問者が自由に閲覧できる体制ではない。
→ 改善策 玄関先に、事業報告・各種規定・施設パンフレットなど閲覧できるようにします。
- ・ 2人部屋について各室、カーテンで仕切るなど施設基準は満たしているが、プライバシーを守る設備としては十分ではない。
→ 改善策 ハード的な改善は難しいが、プライバシーを守る配慮を進めていく。また、室内における感染症対策についても検討していく。

- ・ 利用者が相談できる機会や場所は用意されているが、相談体制や方法を説明した文書の作成や配布がない。
→ 改善策 全体会・相談コーナー・意見箱など、相談体制や方法について説明する文書を作成し、利用者向けに掲示を行う。

◇ 評価結果から改善策(b評価をa評価へ)について

- 今年度、事業計画に掲げた目標に関して、関連する項目について強化していく。

③ 利用者アンケート集計結果

実施状況 利用者調査 令和元年8月20日
利用者名簿から無作為に30名ほど選出

◇ 高い評価「はい」評価した人の割合

80%以上の方

- ・ 体調が悪い時、良く対応してくれるか。

70%以上の方

- ・ 食事はおいしいと思うか。
- ・ 物が汚れた時、すぐにきれいにしてしてくれるか。
- ・ 施設を利用について、わかりやすい説明。
- ・ 施設の役割やサービスをなを知る機会。

◇ 低い評価「はい」評価した人の割合

60%以下の方

- ・ 生活に必要な支援を十分受けられるか(食事介助、トイレ介助、施設 移動介助等)
- ・ あなたの思いや希望を丁寧に聴かれるか。

50%以下の方

- ・ 退所に向けての準備は順調に進んでいるか。
- ・ 自分で施設を利用することを決めたか。

◇ 低い評価への改善策

- 個別支援計画を充実させ、一人ひとりのニーズや意向を踏まえた支援を目指す。
入所・退所時の流れや手順を書いた説明する文書を作成し、利用者向けに掲示を行う。

④ 結果の公表 情報が公開されているホームページ

春風会ホームページ <http://shunpuukai.com/>
ふじのくに静岡県公式ホームページ/評価結果の公表 <http://www.pref.shizuoka.jp>

沼津市立高尾園 善意の手作りマスク等の寄贈

沼津市立高尾園に寄贈していただいた手作りマスクについて、ご紹介させていただきます。

深沢敏江様（沼津市在住）

沼津市立高尾園の深沢施設長のお母様です。長年、市内の学生服を仕立てる洋裁のお仕事をされてきました。タンスに閉まっていた反物などを素材に、一枚一枚手作りでマスクを作り、80枚ほどのマスクを寄贈して頂きました。

ご本人様からは、「長年行っていた裁縫がこのような形で人の役に立つことができうれしいです。一日に作れる数に限りがありますが、身近な人や人のお世話をされている方に使っていたら、お身体を大切にしたいと思えます。」と話されています。



大久保幸代様（伊東市在住）

昨年まで高尾園に入所されておられ、一年程の居宅生活訓練を実施し、現在は地元伊東市で一人暮らしをされている元利用者様から、手作りマスクを20枚寄贈して頂きました。



そこには手紙が添えてあり、高尾園のご利用者や職員への気遣いや新型コロナウイルスへの不安な気持ちや心配を込めていました。今でも施設のことを心配してくれて、何とも言えないうれしさがこみ上げてきました。皆様、大変な思いでこの時期を過ごされています。そんな心が沈んでしまいうれしさに、このような心遣いはとてもありがたいです。

今は、皆様が無事にこの時期を過ぎてほしいと祈るばかりです。その他にも、サージカルマスクを東海医療様、富士根産業様、東海プラント様からご寄付頂きました。ご提供いただいた皆様誠にありがとうございました。

手作りマスクを寄贈していただきました

もくせい苑 もくせい苑のマスク作り



新型コロナウイルス騒動によりマスク不足の中、もくせい苑では縫製作り経験を活かし、社会貢献活動の一環としてマスク作りを行ってきました。販売所での一般販売の他にも、福祉施設や病院からの依頼を受け、少しでも多くのマスクが届けられるよう、日々努力を続けています。

マスクの種類は豊富で、男性用、女性用、ジュニア用（小・中学生）こども用（未就学児童）と大きさも様々。さらに立体と平面と形状も2種類あるので、8種類ものバリエーションがあります。



シヨンがあります。様々な生地を使っているの柄を見るだけでも楽しくなります。価格は250円〜350円。利用者さんからは「毎日たくさん作るの大変だけど、みんなが使ってくれているのが嬉しい」という声が聞かれており、大変ながらもやりがいのある作業と感じています。

白色のマスクは店頭でも見かけるようになりましたが、新しい生活様式にマスクは必須。色とりどりのマスクの中から、お気に入りのマスクを探してみたいかがでしょうか？



石川理事長 春の叙勲にて瑞宝双光章受賞

令和2年4月29日に内閣府より令和2年春の叙勲の受章者が発表され、石川三義社会福祉法人春風会理事長兼あしたかホーム施設長が公共的業務に長年従事してきた人に贈られる「瑞宝双光章」受賞の栄誉に輝きました。

今年の春の叙勲では、静岡県で75名の方が受賞され、瑞宝章は53名の方が受賞されました。

今年は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、天皇陛下への拝謁や川勝平太県知事による伝達式は中止となりましたが、5月21日に叙勲の推薦者である沼津市を代表して頼重秀一沼津市長があしたかホームに来園され、石川理事長に勲章と勲記の伝達がありました。

伝達に際し、頼重秀一沼津市長より、「長年にわたり静岡県東部地域にて先駆的かつ独創的な取り組みで地域社会のために尽力されて来られました。また、老人福祉施設関係者からも信頼を得ておられ、高齢者のみならず、障がいのある方々や児童への福祉事業、青少



頼重秀一沼津市長から叙勲の伝達
(あしたかホーム理事長室にて)

年健全育成等、地域全体に渡る数々の貢献が高く評価されたものです。今後も、益々ご健勝にてご活躍され、沼津市の福祉の更なる発展のために、ご尽力賜りたいと願います」とのお言葉を賜りました。

石川施設長は「名誉ある賞をいただき、市長にも来ていただいて光栄に思います。これからも微力ながら高齢者福祉、障がい者福祉、児童福祉、青少年健全育成のために力を尽くしていきたい」と話され、心新たに決意されました。

なお、今回の石川理事長の叙勲は、法人では五人目の受賞者となります。



- 春風会法人本部・職員センターあしたかホーム
〒410-0302 沼津市東椋路1742-1
TEL(055)967-1166(代) FAX(055)967-3566
- 特別養護老人ホーム伊豆中央ケアセンター
〒410-2402 伊豆市大野304
TEL(0558)72-8111(代) FAX(0558)72-7297
- 特別養護老人ホームめぐもりの里
〒410-2315 伊豆の国市田原1259-29
TEL(0558)76-6700(代) FAX(0558)76-7511
- 特別養護老人ホームみはらの丘浮島
〒410-0318 沼津市平沼929-1
TEL(055)969-3355(代) FAX(055)969-3385
- 障害サービス 生活介護 沼津虹の家
〒410-0302 沼津市東椋路1742-1
TEL(055)967-2220(代) FAX(055)967-3566
- 障害サービス 生活介護 あおばの家
〒410-2315 伊豆の国市田原1258-429
TEL(0558)76-6702(代) FAX(0558)76-6702
- 障害サービス 就労継続支援B型 もくせい苑
〒410-2315 伊豆の国市田原1258-47
TEL・FAX(0558)76-6755
- 原高齢者福祉センター
〒410-0312 沼津市原1200-3
TEL(055)968-4510(代) FAX(055)968-4511
- ふれあいデイサービス(デイサービス一般型)
〒410-2505 伊豆市八幡33-1中伊豆ふれあいプラザ
TEL(0558)83-3380(代) FAX(0558)83-3380
- 天城放課後児童クラブ
〒410-3213 伊豆市青羽47
TEL(0558)87-1080
- 中伊豆放課後児童クラブ
〒410-2505 伊豆市八幡33-1中伊豆ふれあいプラザ
TEL(0558)83-2911
- 救護施設 沼津市立高尾園
〒410-0001 沼津市足高156-1
TEL(055)921-5722(代) FAX(055)921-5723
- ケアハウスはるかぜ
〒410-0318 沼津市平沼929-1
TEL(055)969-3382(代) FAX(055)969-3383
- 小規模多機能型施設 北狩野ケアセンター
〒410-2401 伊豆市牧之郷116番地
TEL(0558)72-8811 FAX(0558)72-8850
- 地域密着型特別養護老人ホーム プレーグあしたか
小規模多機能型老人介護支援事業所
〒410-0302 沼津市東椋路1639-1
TEL(055)967-3400(代) FAX(055)967-3401
- 地域密着型介護老人福祉施設 プレーグおおひと
〒410-2318 伊豆の国市白山堂408-9
TEL(0558)76-7300 FAX(0558)76-7299
- 障害サービス ケアホーム なぎの家
〒410-2315 伊豆の国市田原1258-437
TEL(0558)77-1017
- 地域活動支援センター サポートセンター絆
〒410-2315 伊豆の国市田原1259-293
TEL(0558)77-1221
- 複合施設 ふらっと月ヶ瀬
〒410-3215 伊豆市月ヶ瀬408-1
- あまぎ認定こども園
TEL(0558)85-2030 FAX(0558)75-8201
- あまぎデイサービス(デイサービス一般型)
TEL(0558)85-0816 FAX(0558)75-8201
- 就労継続支援B型 事業所プラム(障害サービス)
TEL(0558)85-1919 FAX(0558)75-8201
- プラムカフェ
TEL(0558)85-2551 FAX(0558)75-8201
- 片浜・今沢地域包括支援センター
〒410-0874 沼津市松長12-3
TEL(055)969-7050 FAX(055)968-2177
- 伊豆市修善寺地区地域包括支援センター
〒410-2413 伊豆市小立野66-1 修善寺生きがいプラザ
TEL(0558)99-9301 FAX(0558)99-9302
- なかいず認定こども園
〒410-2505 伊豆市八幡282-1
TEL(0558)75-2810 FAX(0558)75-2811
- はら居宅介護支援事業所
〒410-0311 沼津市原町中2-7-11
TEL(055)941-8333 FAX(055)941-8334